

現国立競技場の改修する場合の課題（困難な理由）について

I 新しい国立競技場に求められる前提条件について

[建築基準法等の前提条件（現行法規制への適合）]

1. 耐震性の確保

○現在の建築基準に適合させるため、相当規模の耐震改修工事が必要。

2. 建築基準法上の既存不適格の解消等

○東側スタンドの一部増築部分が、①道路越境、②絵画館敷地への日影規制に関し不適合（既存不適格）となっており、改修の際に対応する必要。（屋根を設置した場合においても日影規制に適合させるために、当該スタンド部分を取り壊した上で、減席分を別途確保する必要。）

[競技場機能に関する前提条件（国際基準への対応等）]

3. 8万人席の確保4. トラックの9レーン化5. 観客席への屋根設置（+開閉式遮音装置）6. バリアフリー・ユニバーサルデザイン対応7. 良好な観戦環境（観客席からの適切な視線の確保など）8. ホスピタリティ機能の確保

[その他の前提条件]

9. スケジュール

○2019年のラグビーワールドカップ開催に（工事完了の後、引っ越し作業等の準備期間を含めて）間に合わせる必要。

Ⅱ 改修する場合の課題（困難な理由）について

1. 耐震性の確保

○建築後 56 年経過しており、現在の建築基準に適合させるため、相当規模での抜本的な耐震改修工事が必要。

（一般的な柱の補強では足りず、柱の増設に相当する補強が必要。また、基礎についても杭の増設、基礎梁の設置など抜本的な補強が必要となる。）

- 改修の最大のメリットである費用の大幅な軽減がなされない。
- その一方で、スペースの縮小・分断など使い勝手が悪くなることは確実。

2. 建築基準法上の既存不適格の解消等

○東側スタンドを減席し、その分を含め 8 万席を確保するために西側・南側スタンドを大幅に増席することとなる。

- 大きく歪んだ形のスタジアムとせざるを得ない。
- 開閉式遮音装置設置の設置は困難。また、固定屋根自体の設置の難易度も高くなり、コスト高となる見込み。
- （9 レーン化も含め）良好な観戦環境を確保することが困難。
- 都市計画に定める最高高さに抵触するおそれがある。

3. バリアフリー・ユニバーサルデザイン対応

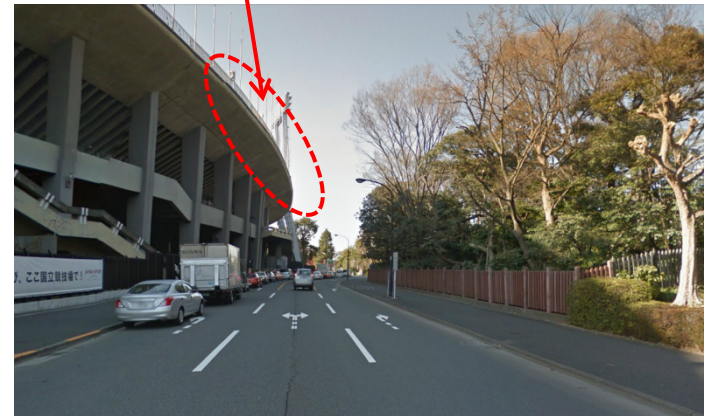
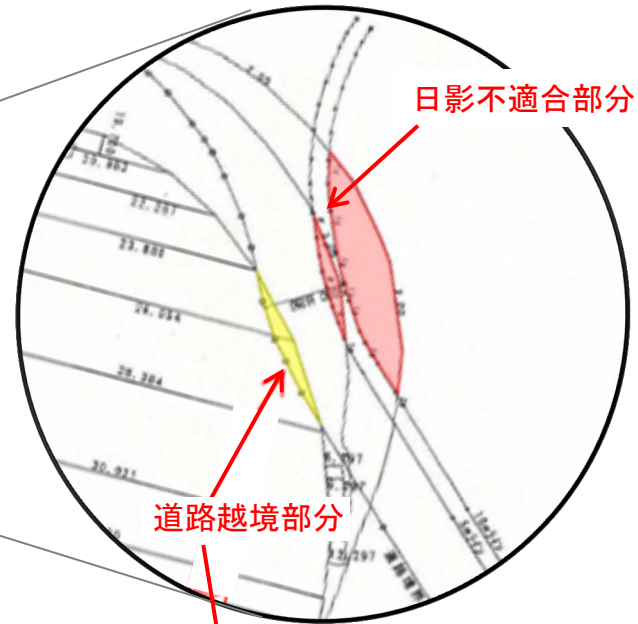
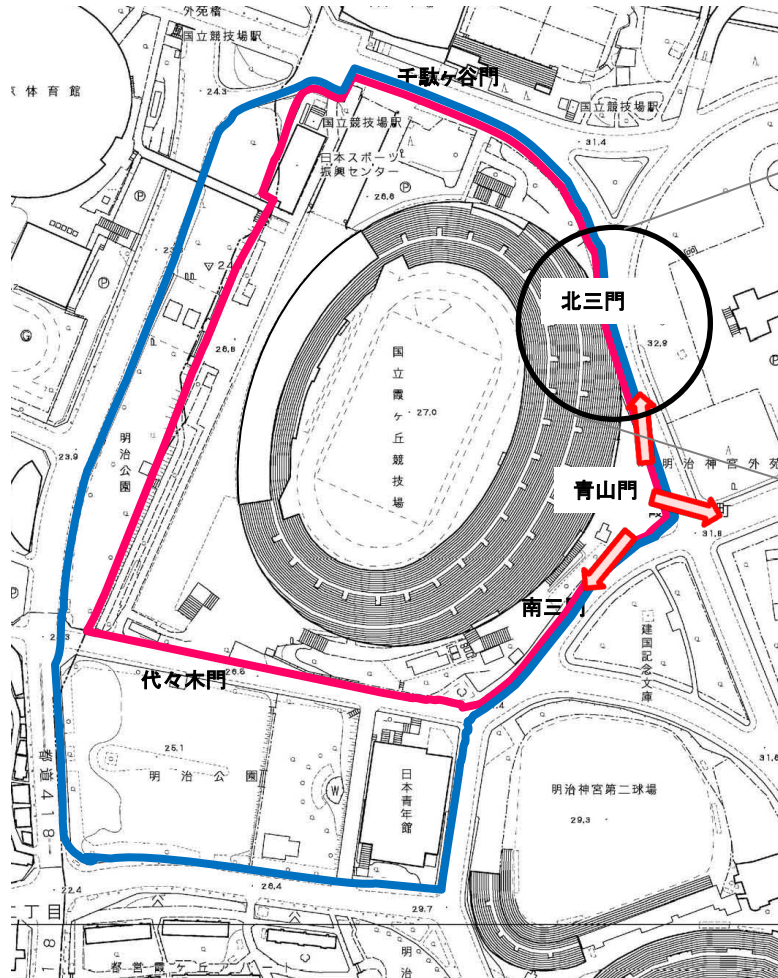
○車椅子席を大幅に増加させる必要。


- 抜本的なバリアフリー・ユニバーサルデザイン対応は困難。


4. スケジュール

- 2019 年のラグビーワールドカップ開催に（引っ越し作業等の準備期間を含めて）間に合わせることは困難（ほぼ不可能）。

敷地制約上の課題



 : 青山門の退場動線

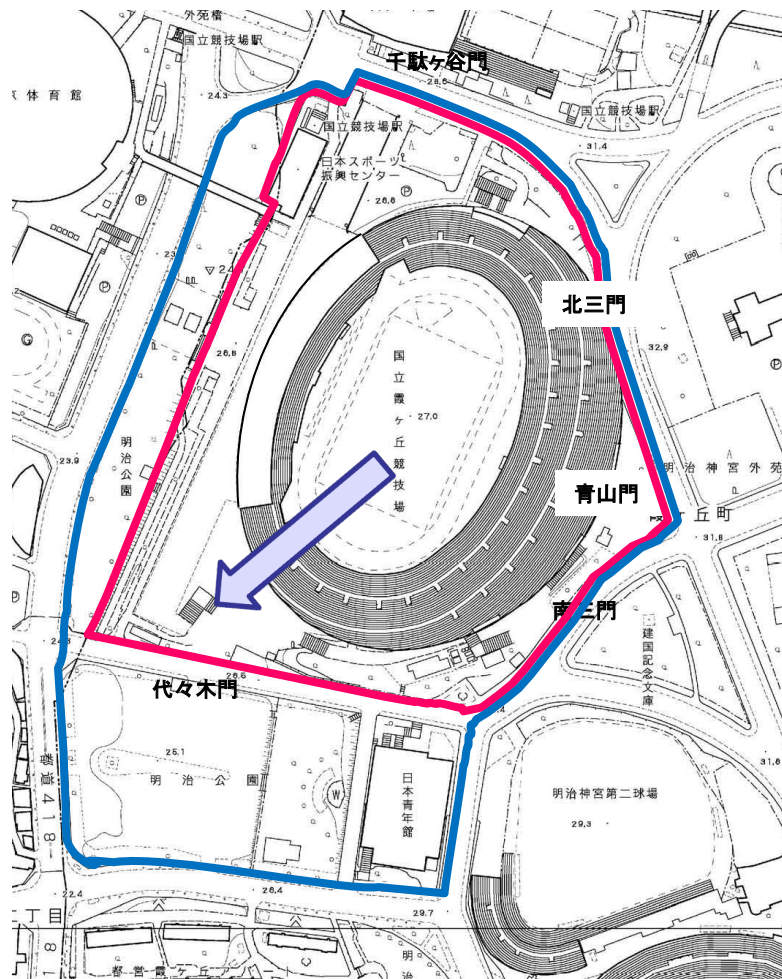
 : 現競技場敷地

 : 計画敷地

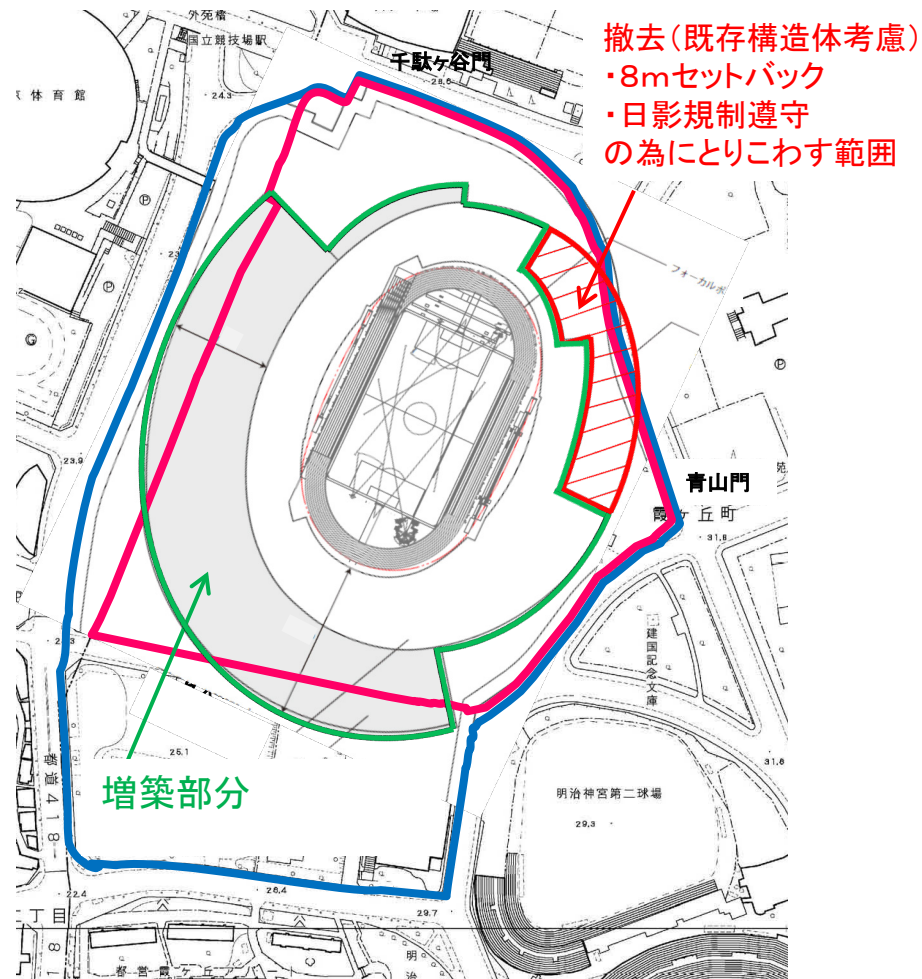
敷地制約上の課題の対応案

○日影規制の遵守、8万席(現行5.4万席+2.6万席)の観客席確保に対応するには、以下の対応が想定される。

①対応案1 競技場の移動(⇒改築)



②対応案2 支障部撤去+増築(⇒改修)



バリアフリー・ユニバーサルデザイン対応の課題

(改修における車椅子席の確保の課題例)

前提条件: 車椅子席は、動線や避難などの安全確保の観点から、スタンド 入口通路付近に設置することが望ましい。

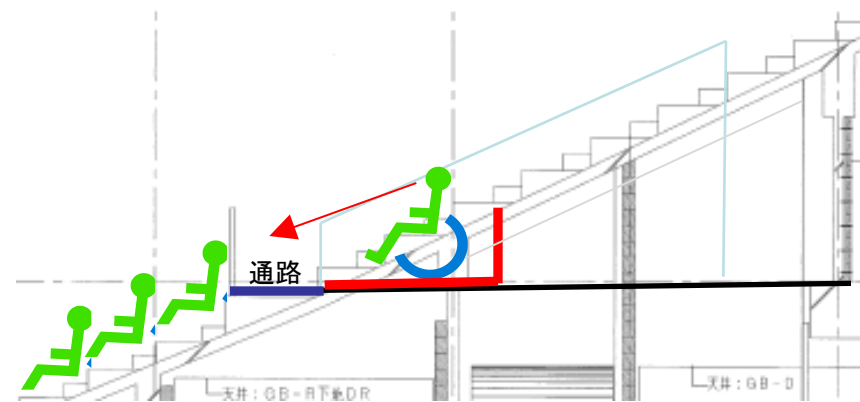
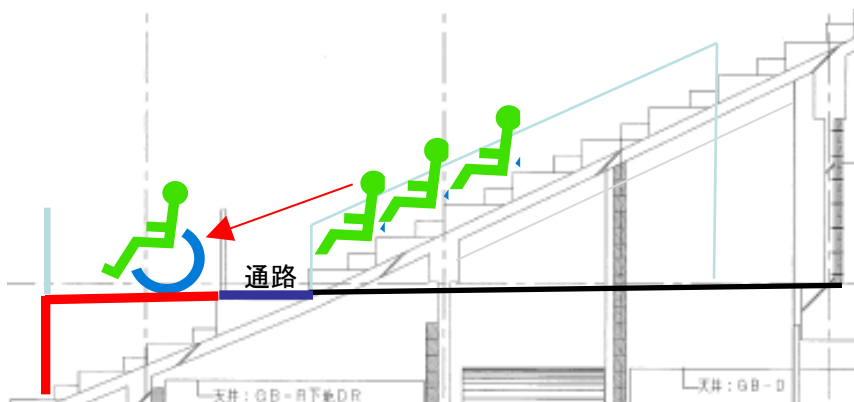
課題:

①【通路の前部に車椅子席を確保場合】

②【通路の後部に車椅子席を確保】

・後部の一般席の視線をさえぎる。

・車椅子席の視線がさえぎられる。



一般席の視線をさえぎる例



◎ ①②とも車椅子席の確保は、困難である。

◎ 改築(建替え)の場合は、車椅子席の後部にコンコースや後部席に段差を設けるなど、設計の自由度があることから、バリアフリー・ユニバーサルデザインへの対応が容易である。

◎ 改修の場合は、観客席からの良好な視線の確保に課題があり、抜本的なバリアフリー・ユニバーサルデザイン対応は困難である。

